

なのはinnocent
い始まり

新し

寡黙なる詐欺師

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

リリカルなのはの世界で一生を終え、気が付くとそこは魔法がない世界だった!?
しかしその世界には、なのは達がいる…

これは主人公の何でもない日常を書き綴った物語。

漫画を読んでいたら書きたくなりました

作者は豆腐メンタルなので、酷評等は勘弁してください

目次

『ブレイブデュエル』 始まります。

1

『ブレイブデュエル』 始まります。

ペラ……………ペラ…

「のーんびり、平和やねえ」

「我が主、そろそろお時間ではありませんか？」

ペラ……………ペラ……………

「おおっと、そうやった。」

T&Hさんもグランツさんも15時から一般開放や、言うてたし、うちの店もしつかり準備してオープンできるようにしないといかんね」

そう、今日は地方都市の少し変わった研究者が開発した体感シミュレーションゲーム『ブレイブデュエル』が全国的に開始される日だ

そしてここ、八神堂も今日『ブレイブデュエル』オープンの日なのだが
「かといつて、店番ほったらかしていくわけにも…」

と、八神堂店主の八神はやては困ったように辺りを見回す

今、この場には八神家の一員で店員でもある八神リインフォース・アインズと愛犬ザフィーラ。

ペラ……………ペラ……

そして、八神堂の端っこの席で黙々と本を読んでいる本作の主人公、加藤裕の姿がある

(流石に店に店員一人だけってのは、マズイやろうなあ)

そんな事をはやてが悩んでいると、背の高い女性が二人、帰ってきた

「お待たせしました。」

「主はやて、店番は我々に任せて準備の方へ」

ペラ……………ペラ……

「二人とも、お帰りさんや」

「ヴィータは一緒ではないのか？」

あの子が一番オープンを楽しみにしていたんだが」

ペラ……………ペラ……

「心配ない。」

先程連絡があつてな」

「学校から直接、こつちに向かってくるそうよ」

「じゃあ、ヴィータが来るまでに大体の準備は終わらせとこおかあ」

と言いながら、立ち上がり伸びをした後、八神堂の奥へ行こうとしていると

ペラ………パタンツ

「んんうゝ、うん？」

いつの間にシグナムとシャマル、帰ってきたんだ？」

「今頃、気が付いたんかい!!」

スパーンツ

S i d e 加藤 裕

イテエ……

「……何処から出したんだよ、そのハリセン」

「乙女の秘密や！」

やかましい。

「それだと、はやての頭の中で乙女 \parallel ハリセンという方程式が成り立っていることになるんだけど……」

「しやーなしやな!!」

「やかましい！」

……はやてと話す時、毎回漫才のようになるのはどうしてだろうか？

「愛の力や！」

「今、俺、何も言っただけじゃなかったよなあ!？」

「いつからお前は超能力者になったんだよ」

「我が主、そろそろ準備の方を…」

「ナイスだ、リインフォース」

「おおつ、せやつたなあ」

「ん？」

「準備？」

「…もしかして、知らないのか？」

「流行に疎いシグナムに言われると、結構心にくるな」

「…知らない。」

「今日は『ブレイブデュエル』オープンの日やって、何度も言うたやんか」

「ああ、グランツ博士の…」

「じゃあ、暇だし手伝うよ。」

「ここにいと、客に追われそうだし。」

「それじゃあ、ヴィータが返ってくるまでに終わらせるぞ!!」

「オーツ!!」